

**製品名: JAB1 (7S6) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe12808**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40% グリセロール、0.01% 新タイプ防腐剤 N、および 0.05% 保護タンパク質で供給されます。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	38kDa

**抗原情報**

遺伝子名	COPS5
別名	cops5; CSN 5; CSN5; JAB 1; MGC3149; MOV34; SGN5;
遺伝子 ID	10987.0
SwissProt ID	Q92905
免疫原	ヒト JAB1 の合成ペプチド

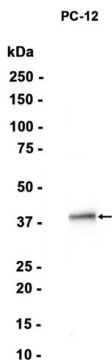
**背景**

さまざまな細胞プロセスや発生プロセスに関与する複合体である COP9 シグナロソーム複合体 (CSN) の推定プロテアーゼサブユ

ニット。CSN複合体は、SCF型E3リガーゼ複合体のカリンサブユニットの脱ネディル化を媒介し、SCF、CSA、DDB2などのSCF型複合体のUblリガーゼ活性を低下させることにより、ユビキチン（Ubl）結合経路の重要な調節因子です。COP9シグナロソーム複合体（CSN）の推定プロテアーゼサブユニット。CSN複合体は、SCF型E3リガーゼ複合体のカリンサブユニットの脱ネディル化を媒介し、SCF、CSA、DDB2などのSCF型複合体のUblリガーゼ活性を低下させることにより、ユビキチン（Ubl）結合経路の重要な調節因子です。この複合体は、おそらくCK2およびPKDキナーゼとの会合を介して、p53/TP53、c-jun/JUN、IkappaBalpha/NFKBIA、ITPK1、およびIRF8のリン酸化にも関与している。CSN依存性のTP53およびJUNのリン酸化は、それぞれUblシステムによる分解を促進および保護する。複合体において、CSNはおそらくCullinからNedd8の切断を媒介する触媒中心として機能する。しかし、CSN単独ではメタロプロテアーゼ活性を示さず、CSN複合体の他のサブユニットを必要とする。CSN複合体によって制御される多数のタンパク質と直接相互作用し、複合体における重要な役割を担っていることが確認されている。BRSK2のプロテアソーム分解を促進する。

## 研究分野

## 画像データ



JAB1 (7S6) ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した PC-12 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。